

經典餘師

書經

三

口 11

1029

25



商書

湯誓

王の曰く格再衆
庶衆く朕言と
聽台小子敢て乱
と稱行
有夏多罪天命
で之と殛之今再
有衆汝曰我后
我衆と恤不我穡
事と舍而夏と割
正と
予惟汝衆言と聞

商書

湯誓

王曰格爾衆庶悉聽朕言非台小子
敢行稱亂有夏多罪天命殛之今爾
有衆汝曰我后不恤我衆舍我穡事
而割正夏
有夏の今乃天子天地日月神明とらるる罪多ゆふ天の神
酒色暴虐とらるるの罪多ゆふ天の神
明らるるを殛とらるる今汝有衆のつとと我后
夏王不仁とらるる衆と恤まはば穡穡の事と
舍て民と割割とらるる予惟
予惟

商書

湯誓

予惟

夏氏罪有予上帝
と畏敬正不不今
汝其曰夏の罪其
台と如夏王率く
衆力と過率て夏
の邑と割と有衆
率てと忘る協弗

曰く時日曷く喪
いん予汝及皆亡
ん夏の徳茲の若
今朕必ず汝を爾
尚く予一人を
輔天之罰と致せ
予其汝を大賚で

聞汝衆言夏氏有罪。予畏上帝不敢
不正。今汝其曰夏罪其如台。夏王率
遏衆力。率割夏邑。有衆率怠弗協。
又

○曰時日曷喪予及汝皆亡夏德若
茲今朕必徃爾尚輔予一人致天之
罰予其大賚汝爾無不信朕不食言
爾不從誓言予則孥戮汝固有攸赦

人再信せんと無
朕食言せ不再誓
言に従不予則ち
汝と嫁戮せん赦
彼有と問

築王（つきの）つねに大言（おほい）しきり身と日輪（ひのわ）をたてゝ、
 民をふくむ。みづから此日（このひ）もやうな
 やられ、いふはなしとてやゝ亡（なげ）なり。易玉（えきぎよ）のた
 まを築王の悪徳（あくとく）にくれり。朕往（われゆく）るべし。
 再衆（さいしゆ）は尚（なほ）予（まづ）をこころひて築王より天罰（てんばつ）
 を致（いた）す。汝らには褒美（ほうび）を賚（たまは）ふべし。言と信ト
 う。あらず。予をこころひて、食言（しょくご）をいふ。
 比（ひ）まじき。うへに再々（さざ）と此誓言（このちかご）より不従（ふじよう）
 妻孥（さいなん）とと戮（ころ）す。

仲虺之誥

成湯桀と南巢于
成ら惟に慙徳有
曰く予恐く來世
台と以て口実と爲
仲虺乃ら諾と作る

仲虺之誥

辭ハナハタの湯ユ王オウ夏カと亡ナシて
 後語コトワザ文フナヒと天下テンカへ誥コト文フナヒ

成湯放桀于南巢。惟有慙德。曰。予愁來世。以台爲只。實仲虺乃作誥。夏の桀王

曰嗚呼惟天民之
 生欲有主無
 乃亂惟天聰
 明生時
 有夏昏德民塗炭
 墜天乃王
 勇智錫萬邦
 表正萬邦舊

曰嗚呼惟天生民有欲無主乃亂惟
 天生聰明時又有夏昏德民墜塗炭
 天乃錫王勇智表正萬邦續禹舊服
 茲率厥典奉若天命

服續茲厥典
 率若天命
 奉若

此世界天子
 此世界天子
 此世界天子

夏王罪有上天
 矯誣以命
 下于布帝用
 不式商命
 用厥師
 賢簡
 勢附
 徒有

有罪矯誣上天以布命于下帝用不
 臧式商受命用爽厥師簡賢附勢寔
 繁有徒

五

諸大名より天子と仰ぐありて天下の民より天子と仰ぐありて

賢と佐徳を輔
忠と顯良と遂
弱と兼昧と攻
と取亡と侮と亡
推存と固す邦乃
其昌あり徳日
に新より萬邦惟

民と葛國へつり農作とてのりつりつり少くその
餉饋と送るは葛國は人々をれと棄つり童子
とるる一々をれ時よりるるをれとるるをれとるる
民のくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
國とくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
とと怨つり南の國とくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
生んぬものと相慶つりくくくくくくくくくくくくく
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

○佐賢輔徳顯忠遂良兼弱攻昧取

亂侮亡推亡固存邦乃其昌徳日新

萬邦惟懷志自滿九族乃離

懷志自滿九族
王懋大徳と昭
中と民于
建義と以て事と
制と礼と以て心
と制と裕とを
後昆と世

つるふり及と侮りりりりりりりりりりりりりり
推たつる存りりりりりりりりりりりりりりりりり
昌あり君の徳日新よりるるくくくくくくくくくく
君のくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

○王懋昭大徳建中于民以義

制事以禮制心垂裕後昆

予聞曰能師と
自得と者王と
人己の若多莫
と謂者亡問を
好則ち裕あり自
用則ち小なり

予聞曰能自
得師者王謂人莫己若者亡好問則
裕自用則小嗚呼慎厥終惟其始殖
有禮覆昏暴欽宗天道永保天命

爾無各再の典と
守以て天休と承

爾善有朕敢
蔽弗罪朕躬
當敢て自赦弗
惟簡ふと上帝
之心に在る再萬
方罪有予一人
在予一人罪有爾
萬方と以て予
と無

嗚呼尚克時
忱乃亦終有

伊訓

惟元祀十有二月
し丑伊尹先王于
祠嗣王に奉祇
其祖に見候旬羣
后咸在百官己
總て以家宰と聽
伊尹乃明言
烈祖之成德と

爾典以承天休

爾典以承天休
造りて天下を
善人と除て邦々
皆淫らるる
忠と孝と信と義とを守て

天道の休と
善朕弗敢蔽罪當朕躬弗敢自赦惟

簡在上帝之心其爾萬方有罪在予

一人予一人有罪無以爾萬方

一人予一人有罪無以爾萬方
又一人々々
を一人と再方と善道又善言を直と行ふ
を一人と再方と善道又善言を直と行ふ

簡を蔽て人々の心と終おとる人々
簡を蔽て人々の心と終おとる人々

罪つる人々の心と終おとる人々
罪つる人々の心と終おとる人々

一人の心と終おとる人々
一人の心と終おとる人々

嗚呼尚克時忱乃亦終有終

一人の心と終おとる人々
一人の心と終おとる人々

伊訓

湯王崩
太子太丁とや死す
太子太丁とや死す

惟元祀十有二月し丑伊尹祠于先

王奉嗣王祇見其祖侯甸羣后咸在

百官總己以聽家宰伊尹乃明言烈

祖之成德以訓于王
惟即位の元の祀乃
二月の日の伊尹

家宰と外侯甸羣后とを奉
湯王の靈

以王于訓
 曰嗚呼古有
 夏先后方厥德
 罔山川鬼神亦
 寧不莫鳥獸
 魚鼈鼉暨咸
 若其子孫率弗
 于皇天災降
 手我命假
 造攻鳴條自
 朕毫自哉

見礼あり嗣王いけりあきなり百の官屬
 ふ己の職と何きよりい總て家宰職
 けり又烈祖の徳とのくま今上の嗣王
 訓よりいけり今上の十月の朔の正月
 嗚呼古有夏先后方懋厥徳罔有天
 災山川鬼神亦莫不寧暨鳥獸魚鼈
 咸若于其子孫弗率皇天降災假手
 于我有命造攻自鳴條朕哉自毫
 聖人禹王とて夏は
 君の徳とていけり懋なりいけり早拔水
 天の災もなかり山川の神もやすなり鳥
 獸魚鼈暨て四海なりいけり成王は若
 四百余年の太平ありき子孫桀王とて
 て王の道と率より皇天いけりいけり災禍と

官刑と制有位
 于傲めて曰敢
 官于恒舞于室
 酣歌于室有時
 巫風と謂敢貨
 色于殉遊敗于
 恒有時と淫
 風と謂敢て聖言
 と侮忠直と逆
 者徳と遠と頑
 童と比と有時
 亂風と謂惟茲三
 風十愆卿士身于
 一有家必喪邦
 君身于一有國必

輔佐とて天下の民
 仁恵とていけり
 有位曰敢有恒舞于宮酣歌于室時
 謂巫風敢有殉于貨色恒于遊敗時
 謂淫風敢有侮聖言逆忠直遠者徳
 比頑童時謂亂風惟茲三風十愆卿
 士有一于身家必喪邦君有一于身
 國必亡臣下不匡其刑墨責訓于蒙
 士伊尹又官司の刑とていけり制とて有位の人
 と傲戒とのいけりいけり三の風儀とていけり
 行のいけりいけりいけりいけりいけりいけり
 刑責とのいけりいけりいけりいけりいけりいけり

す亡臣下匡不其
刑墨具蒙士
訓

嗚呼嗣王厥身
祗念哉聖謨
洋洋嘉言孔

とていふへど憚と巫の風といふニアツク貨財を
と殉色をふたり遊山又とさださ敗た
ぬけふと名づけく瀦風とさうニツリ聖人
の教とゆつとり忠義正直なる言ハ
い年蓄く徳ありのへそとて頑く重の
びのささうへうささの比にらぶく時
ろくだを名けくさうに悪ささりや卿老
諸士の身ふかろ時をその家めくかる
ふささり又邦の君乃身ふかろさう時
そのささめく滅亡ささるく臣下の人々
いうささりて匡いささく君をささる
その臣下おささる時をその刑に墨刑と
又この法をささるく具ささるく重蒙の
ぬささるく諸士ささるく訓へささる
●嗚呼嗣王祗厥身念哉聖謨洋洋
嘉言孔彰惟上帝不常作善降之百

惟我商王聖武
と布昭して虐
代に寛を以て
兆民允懷今王
厥徳と嗣初在
不罔愛とさ
親敬とさ
家邦于始と四
海于終

一、君湯王聖人の徳を以て天下を命つた
まひさ手と假く桀王ささるく悪人とささる
湯王哉く亳乃城と発足ささるく夫より夏の鳴
條の都と攻ささるく此いささるく手初なり
我商王布昭聖武代虐以寛兆民允
懷今王嗣厥徳罔不在初立愛惟親
立敬惟長始于家邦终于四海
この時湯王より聖徳武威の光を布昭
桀王乃虐行ありささるくささるく寛め
ささるく兆民の徳を以てささるく懷く
今上の王の徳を以てささるく即位の初より
れささるく民と愛を以てささるく親尊
の道とよめられ年長徳長一人とささる
ささるく家乃内より法とささるく邦内
いろささるく邦々より四海の内におさる

嗚呼先王肇修人紀從諫弗
 紀紀と修諫修修と諫諫諫と從從從と弗弗弗と時時時と若若若と上上上と居居居と克克克と明明明と下下下と爲爲爲と克克克と忠忠忠と人人人との與與與との備備備との求求求と不不不と身身身との檢檢檢との及及及と不不不と若若若と以以以と至至至と萬萬萬と邦邦邦と有有有と于于于と至至至と茲茲茲と惟惟惟と艱艱艱と哉哉

敷敷と哲哲哲と人人人との求求求と再再再との後後後との嗣嗣嗣と于于于と輔輔輔との俾俾

○嗚呼先王肇修人紀從諫弗
 弗弗と先先先と民民民と時時時と若若若と居居居と上上上と克克克と明明明と爲爲爲と下下下と克克克と忠忠忠と與與與と不不不と求求求と備備備と檢檢檢と身身身との若若若と不不不と及及及と以以以と至至至と于于于と有有有と萬萬

邦茲惟艱哉先祖の帝王の徳を修むるの艱難なり

○敷敷と哲哲哲と人人人との求求求と再再再との後後後との嗣嗣嗣と于于于と輔輔輔との俾俾

俾俾と輔輔輔と于于于と爾爾爾との後後後との嗣嗣嗣と于于于と輔輔輔との俾俾

祥祥と不不不と善善善と降降降と之之之と百百百と殃殃殃と爾爾爾との惟惟惟と德德德と罔罔罔と小小小と萬萬

邦邦と惟惟惟と慶慶慶と爾爾爾との惟惟惟と德德德と罔罔罔と大大大と墜墜墜と厥厥厥と宗宗

常常と不不不と善善善と作作作と之之之と百百百と祥祥祥と降降降と之之之と不不不と善善善と作作作と之之之と百百百と殃殃殃と降降降と再再再と惟惟惟と德德德と小小小と罔罔罔と萬萬萬と邦邦邦と惟惟惟と慶慶慶と再再再と惟惟惟と德德德と大大大と罔罔罔と厥厥厥と宗宗宗と不不不と善善善と作作作と之之之と百百百と祥祥祥と降降降と之之之と不不不と善善善と作作作と之之之と百百百と殃殃殃と降降降と再再再と惟惟惟と德德德と小小小と罔罔罔と萬萬萬と邦邦邦と惟惟惟と慶慶慶と再再再と惟惟惟と德德德と大大大と罔罔罔と厥厥厥と宗宗

早早と不不不と善善善と降降降と之之之と百百百と殃殃殃と爾爾爾との惟惟惟と德德德と罔罔罔と小小小と萬萬

大甲上大甲と上

大甲上大甲と上

惟嗣王不惠于阿衡伊尹作書曰先
王顧諟天之明命以承上下神祇社
稷宗廟罔不祗肅天監厥德用集大
命撫綏萬方

惟尹躬克厥辟
宅肆嗣王不

惟嗣王不惠于阿衡伊尹作書曰先
王顧諟天之明命以承上下神祇社
稷宗廟罔不祗肅天監厥德用集大
命撫綏萬方
○惟尹躬克左
右厥辟宅師肆嗣王不承基緒

基緒を承

惟尹躬克厥辟
宅肆嗣王不

○惟尹躬克左
右厥辟宅師肆嗣王不承基緒

相亦罔終嗣王戒哉祗爾厥辟辟不
辟忝厥祖

王惟庸として念
聞と問伊尹乃ち
言て曰く先王昧
爽不_レ顧_二うて
坐_二以て且_二待_二旁
く俊彦と求_二後
人と啓さ迪_二厥
命と越_二て以_二
自ら覆_二と無_二れ
乃_二れ儉徳と真
ん_二唯永圖と懷

王桐宮_{王桐宮}且_且祖_祖憂_憂居克允_{居克允}德終_{德終}

世に迷ひぬる王祖桐宮居憂克終允_{王祖桐宮居憂克終允}
徳_{王祖桐宮居憂克終允}
神威にちふけり大甲も祖宗の徳も

大甲中

惟三祀十有二月

大甲中

朝伊尹冕服_{朝伊尹冕服}以_以奉_奉于_于歸_歸

惟三祀十有二月朝伊尹以冕服奉_{惟三祀十有二月朝伊尹以冕服奉}

歸_歸

嗣王歸于亳_{嗣王歸于亳}

書_書と作_{と作}て曰_{て曰}民_民后_后非_非とバ_{とバ}克_克胥_胥匡_匡して以_以て生_{て生}す

民非后罔克胥匡以生后非民罔以_{民非后罔克胥匡以生后非民罔以}

罔_罔后_后民_民に非_{に非}と

辟四方_{辟四方}皇天眷佑有商_{皇天眷佑有商}俾_俾嗣王克終_{俾嗣王克終}

商_商と眷_{と眷}佑_佑

厥德實萬世無疆之休_{厥德實萬世無疆之休}

嗣王克厥德_{嗣王克厥德}と終_{と終}俾_俾實_實に萬世無_{に萬世無}之休_{之休}なり

王拜手稽首_{王拜手稽首}して

予小_{予小}

明_明う不_不自_自ら不_不類_類

予不明于德自底不類欲敗_{予不明于德自底不類欲敗}

縦_縦禮_禮と敗_{と敗}以_以て天_天

禮以速_{禮以速}于_于厥躬_{于厥躬}天作孽猶可違自_{禮以速于厥躬天作孽猶可違自}

と厥躬_{と厥躬}于_于速_速天_天

作孽不可追既往_{作孽不可追既往}昔_昔師保之訓弗克_{作孽不可追既往昔師保之訓弗克}

作孽猶違可自
不既往師保之訓
弗尚匡救之
德賴惟厥終
圖

伊尹拜手稽首
曰厥身之修
允德下于協惟明
后

先王困窮于惠
民厥命之服
不悅不有罔

于厥初尚賴匡救之德圖惟厥終

伊尹拜手稽首曰
修厥身允德協于下惟明后

窮民服厥命罔有不悅並其有邦厥

鄰乃曰我后
來罰無

王乃德之懋乃
烈祖之視時
豫怠

先王奉孝
思下之接恭
思遠之視惟明
德之聽惟聰朕王
之休承敷

鄰乃曰我后
來無罰

祖無時豫怠
王懋乃德視乃烈

惟明聽德惟聰朕承王之休無敷

大甲下

伊尹申て王于誥
て曰嗚呼惟天親
無克敬以惟親民
常懷と悶仁有
于懷鬼神常享
と無克誠多る于
享天位艱哉

大甲下

伊尹申誥于王曰。嗚呼。惟天無親。克
敬惟親。民罔常懷。懷于有仁。鬼神無
常。享于克誠。天位艱哉。

親に間とめざる人といふ事なまといふことより
 親むとなく万民とあましく移くめぐむことより
 車とろやまの身とつらばむそれより天の親より
 あり万民も常に仁心乃徳あり君よりたゞこと
 懐くべくして神鬼もいかりいのちをもとを誠
 道より人をもつとてめぐるその祐ありと受け
 たまふことげより帝天の子たりと万民の
 上り位よりいの中々易うぬ艱くともく

徳にまへ惟治まう
否徳まへ乱る治
與道と同ふと興
不と罔乱與事と
同ふす亡ふと罔
終始厥興にとる
と慎む惟明の
后

先王惟時懋て厥
德と敬て克上帝
に配す今王令緒
と嗣有尚いこの茲
と監とん哉高と升
必と下自するが若
爾と陟必と連自

德惟治不德亂與治同道罔不興與

亂同事罔不亡終始慎厥與惟明明

后。
 中なかつううちちををすするる 此このの 德とく 否いな 時とき をを 亂らん せせ ぬぬ 聖せい

人乃治之此道也。あるところへんところづきとき
と身とくえ吉福興さふふふー乱とちのふとー

人の事より己の亡さるるより己の死の始め終まで
心と與ところを慎むべしものごとくせむといふべしと明る

○先王惟時懋敬厥德克

配上帝ニ今王ニ嗣有ニ令緒ニ尚監ニ茲哉ニ若

外高必自下若陟遐必自邇。

天子とて、上帝の命を配り、今王業を嗣ぐべしと云ふ。

民の事と輕する
無難惟難一厥
位又安ん無
惟危終始
慎言汝の心于
逆有必諸
道求言汝の志
于孫有必
諸道非
求鳴呼慮弗胡
獲爲弗胡成
一人元良萬邦以
有

王と監... 次第... 德...
難無安厥位惟危慎終于始有言逆
于汝心必求諸道有言遜于汝志必
求諸非道鳴呼弗慮胡獲弗爲胡成
一人元良萬邦以負
民百姓と治る...
言ハ耳... 遜... 言ハ... 非道...
○無輕民事惟

君辨言と以て舊
政と亂る國臣寵
利成以て成功居
と罔人邦其永
休于享せん

○君罔以辨言亂舊政臣罔以
寵利居成功邦其永于休
君乃寵利を居とつり...
臣下も又... 功あり...
君乃寵利を居とつり...
君臣咸純一德

咸有一德
伊尹既政と
厥辟復告歸
將乃德于陳
戒て曰く鳴呼天
謀難命常
靡厥德と常

咸有一德
伊尹既復政厥辟將告歸乃陳戒于
德曰鳴呼天難謀命靡常常厥德保
厥位厥德靡常九有以亡
伊尹とて
大甲とて

取位と保す取德
常靡九有以亡

夏王德と庸にと
ふと克弗神慢と

り民と虐す皇天
保せ弗萬方于監

一德と眷求
神主作俾惟尹

躬暨湯咸一德
有克天心享天

の明命と受以て
九有之師と有爰

に夏正と革む

政事とつづけ復つ何衡の職とやめく老と
ふいふんとせん王と告歸とた德の戒めとりて陳て
曰や天命の謀と常法とくみとるふと
くちと君との德と常にするの時と君の位と

ふと手と保やと常德と
ふと時と九有の地と亡と失ふと

弗克庸德慢神虐民皇天弗保監于

萬方啓迪有命眷求一德俾作神主

惟尹躬暨湯咸有一德克享天心受

天明命以有九有之師爰革夏正

祭王との君との德と庸とと神と慢と民とく
ふとめくふと皇天といふと方との内と監たふと

天子の命と作ら湯王伊尹と純一の德ありと
と祭の主と作ら湯王伊尹と純一の德ありと

天我有商に私

すふと非と惟天

一德于佑く商下

民于求ふに非

惟民一德于歸

德惟一と動て

吉と不と罔德

二と三と動て凶

凶僭不人へ在惟

天災祥と降と德

在

天の心意と九有の師衆とたふらひては
つと夏の曆とつと殷の正月と改たふ

非天私我有商惟天佑于一德非商

求于下民惟民歸于一德德惟一動

罔不吉德二三動罔不凶惟吉凶不

僭在人惟天降災祥在德

の天下と天の神明と元より依祐の私と
たりと民と安と仁の一德のものと

命と民とえより一德と君との歸服と
る外と君の德とされと事と吉と

り利とと乃と奢とと徳二三ととと
ふと凶と災と降とと祥とと

ふと身と吉凶と人の徳と不徳
ふと天と災と降とと祥とと

ふと身と吉凶と人の徳と不徳
ふと天と災と降とと祥とと

ふと身と吉凶と人の徳と不徳
ふと天と災と降とと祥とと

今嗣王新厥命
と服と惟厥徳と
 新すすべ終始惟
 一時乃日
新たり官を任
 惟賢才左右惟其
 人臣上の為徳の為
 下の為民の為其
 難其慎惟和
 惟一

徳常の師無善と

○今嗣王新
 服厥命惟新厥徳終始惟一
 時乃日
 新任官惟賢才左右惟其人臣為上
 為徳為下為民其難其慎惟和惟一
 今大甲位と嗣天子と命を不とこと服
 う徳と常と新と終始の初より
 公六卿のりろん左右近侍をその人々を徳
 徳と用ゆべ臣心得上と下きく
 徳とやとこ一為君の為り忠と献下きく
 徳と為る仁とたれと民乃為と
 徳と為るこの変易と軽とべぬ
 難慎いべ
 ○徳無常師

主と師と為
 善常の主無克一
 于協萬姓咸
 大哉王の言と
 曰又一哉王の心
 と曰俾克先王之祿
 と終して永烝民
 の生と底

嗚呼七世之廟以
 徳と觀可萬夫
 之長以て政と
 觀可

主善為師無常主協于克一俾萬
 姓咸曰大哉王言又曰一哉王心克
 綏先王之祿永底烝民之生
 身得と主と常と偏倚と
 万の事乃理と脇と人あつれば万姓と王の一言と
 うけりてその徳の大なりと咸と又王の心の
 一と先王の祿と天下と綏と烝の民の生と
 たりとめぐ
 ○嗚呼七世之廟可以觀
 徳萬夫之長可以觀政
 天子七廟なり
 徳大なりと
 業と興との君と太祖の廟ととて第二代
 と昭の座ととて第三代と穆の座ととて入りぬ

其台也如

先王服有天命

恪謹一茲猶常

寧不厥邑于常

今古于承不天之

命也斷之知也罔

矧也其克先王之

烈也茲曰

若天其我命

此所也水のあり地うとまてくやの由
来とも匡く生とたのめとつる今龜ト考

○先王有服恪

謹天命茲猶不常寧不常厥邑于今

五邦今不承于古罔知天之斷命矧

曰其克從先王之烈

何服よりん天命と

寧と格謹とい民の爲り邑不常

今身にたり古例に承一都とあふ

○若顛木之有由蘖天其永我命于

茲新邑紹復先王之大業底綏四方

今この歌乃地より殷れ邑一都とあふ

今顛木乃ふの蘖と生にふ

今新邑より國家の命とたふ四方と

盤庚敷于民由乃在位以

常舊服正法度曰無或敢伏小人之

攸箴

利欲とふと便り所より小人と

民もげよと心得たせし是より

盤庚その在位の民と正し又小人

先王より常舊の服より

の中より遷都の言伏し盤庚あり禁

衆予汝于訓（衆は予に汝を訓へし）
告人汝猷（告る人汝の猷を）
心黜（心を黜め）
傲（傲を）
康（康を）
從（從を）
無（無を）

古我先王亦惟（古は我先王も亦）
舊人圖任（舊人は圖を任）

政（政を）
之修厥指（之は修め其の指を）
不王用（不王は用を）
不欽（不欽を）

逸言有（逸言は有を）
罔民（罔民を）
用（用を）
不（不を）
變（變を）
今（今を）

汝聒（汝は聒を）
聒（聒を）
起（起を）
險（險を）
膚（膚を）
予（予を）
乃（乃を）
訟（訟を）
所（所を）
知（知を）
弗（弗を）

王命衆悉至于庭王若曰格汝衆
予告汝訓汝猷黜乃心無傲從康（康は監）

黜（黜を）
新邑（新邑を）
命（命を）
一（一を）
無（無を）
古我先

王亦惟圖任舊人共政王播告之修
不匿厥指王用不欽罔有逸言民用

不變今汝聒聒起信險膚予弗知乃
所訟（所は訟を）
古我先王也（古は我先王也）
舊人共政（舊人は共政を）
王也（王也）
又欽（又欽を）
逸過言（逸過言を）
乃知乃

又在位乃人々聒（又在位乃人々聒を）
德化（德化を）
信（信を）
民（民を）
起（起を）
乃知乃

非予自荒茲德惟汝含德不惕予
一人予若觀火（一人予は若し觀火を）
予（予を）
荒（荒を）
德（德を）
惟（惟を）
汝（汝を）
含（含を）
德（德を）
不（不を）
惕（惕を）
予（予を）

予亦拙謀（予は亦拙謀を）
作（作を）
乃（乃を）
逸（逸を）
予（予を）
亦（亦を）
拙（拙を）
謀（謀を）
作（作を）
乃（乃を）
逸（逸を）

若網在綱有條而不紊若農服
田力穡乃亦有秋（田の上は力穡を）
下の上は力穡を

田力穡乃亦有秋（田の上は力穡を）
下の上は力穡を

て乃亦秋有る若
汝克乃の心を黜け
實徳と民に施し
婚友に至る乃
は敢て大言せん
汝積徳有と

汝吉言と百姓
和せ不惟汝自
ら毒と生じ乃
ち敗禍茲究以て
自う、歎身又災
す乃ち既小惡
民干先乃恫と
奉汝悔も身何
ぞ及ぶ

乃くもたふと縷の元縷いたふとやふと縷の條々
 乃くもたふと素の元素いたふとやふと素の條々
 乃くもたふと秋乃穠
 乃くもたふと汝克黜乃心施實德

乃不畏我毒手遠邇愔農

黍稷。取の地を水難の戒あり。毒のくはて遠近の民の害をを畏どし。民とわが當分の安

樂を以てあつむるは遠くものありとてよくなく
たゞ人を農業に惰樂を以て民をたゞし乃苦勞とな

と江田^{えだ}敵^{てき}と服^{ふく}不^ふと少^{せう}々^々泰^{たい}擾^{じやう}
ちくしんく困^{こん}究^{きゆう}しんくしんく
(汝不和)

言于百姓惟汝自生毒乃敗禍盡究

以自災于厥身乃既先惡于民乃率

其恫汝悔身何及
なんぢ古言とをわきま
多民乃公乃和らふ

ざるを惟汝のころ毒にやめつく車の敷を
 ちの禍消つくふも元來宛るるより生トて必
 ちなり自ら身法災凶とぞ移くるるの先へ
 まはり多少悪心と民に志や一かつく吾身の惻と
 奉ふやうになくべしなり時
 悔しうもいひにやうきみ
 ○相時愼民

猶ラ胥エ顧シ于箴言ヲ其發有逸口矧予制

惟新

古へ我先王暨乃祖乃父胥及之逸勤寸予敢て非罰と動用せし世爾旁と選予爾ダ善と掩不茲予先王于大享する爾祖其從うて享よ與る之福と作災と作予亦敢て非徳と動用不

顧りや逸口乃言と云ふ一と云ふと受て治れと云ふ
 たりなり汝はともぐり民にれいへく我まて
 昏動いはいんを予えより乃は命の長短と制
 らる自由あるもみづりありて心なふこと
 れへを枯野原より火燎つてそのふさうなり
 濡るていへば心やと撲滅なるにそのくさるも
 此より汝と咎むふりて元來ふんぢらるるこ
 ういへば清く
 〇遅任有言曰人惟求舊
 器非求舊惟新
 遅任は古の賢人の名なり
 器のものを新しきものなり

古我先王暨乃祖乃父胥
及逸勤予敢動用非罰世選爾勞予
不掩爾善茲予太享于先王爾祖其
從與享之作福作災予亦不敢動用
非德

予汝于難若射之
之志若有若
汝老成人侮
無孤有幼弱
厥居于長
勉于乃力出
予一人之猷
作聽

遠邇有無罪
德用厥死
彰人邦之
惟汝眾邦之

惟予人佚罰有

凡爾眾其惟告
致于今日後日
至各爾之事
乃之位齊
乃之位度
身及悔可弗

盤庚中

盤庚作惟河
涉民以遷

經典餘師

○予告汝于難若射之

有志汝無侮老成人無弱孤有幼各

長于厥居勉出乃力聽予一人之作

猷

民之為長居聽

無有遠邇用罪伐厥死用德彰厥善

邦之臧惟汝眾邦之不臧惟予一人

有佚罰

凡爾眾其惟致告

今至于後日各恭爾事齊乃位度乃

口罰及爾身弗可悔

今至于後日各恭爾事齊乃位度乃

口罰及爾身弗可悔

今至于後日各恭爾事齊乃位度乃

口罰及爾身弗可悔

今至于後日各恭爾事齊乃位度乃

口罰及爾身弗可悔

盤庚作惟涉河以民遷乃話民之弗

經典餘師

乃ち民之率弗^{さふ}と
話^{はな}て誕^{たん}と告^つる^を實^{じつ}
を用^{もち}ゆ

其有衆咸造褻

勿王庭又在盤

庚乃ハル厥民ト登

進しんて曰い明めいに朕しん

言と聽朕命と

荒失すこと無れ

嗚呼いふ古我先ふるより后のち惟ただ

民之承不_レ固

后と保
一
番感

以て天の時を待たず

鮮

率^〇誕^二告^二用^二宣^二

盤庚ハナヒの作つくた民たみの遷うつる

告こげこららままううふふ　○其有衆咸造勿な襲し在王庭

盤庚乃登進厥民曰明聽朕言無荒

失朕命

衆の民も王居の庭に入りて造つといふ
いま一め々しく執るゝ思ひく失礼

朕命ミコトノをニ荒失アハシふ心へ
たう人とかうとちかうと
嗚呼古我先后

罔不惟民之承保后胥感鮮以不浮

天時

鳴呼と云ふ心なり嘆羨と云ふ心なり
代の后方の多と万民と承いさるる
前

殷大震と降す先

王懷世不願作彼

民の利と見て用

て遷る汝曷と我

古后之聞と念弗

汝と承汝として

惟喜康と共ニ俾

るなり汝又咎有て

蜀子比するゑハ非

३

のうとくハ　ウ　も　人　カ　と　の　う　も　
天の時　節　り　浮　さ　う　と　ふ　こ　も　一　
○　殷　降　大

虞先王不懷厥攸作視民利用遷汝

易弗念我古后之聞承汝俾汝惟喜

康共非汝有咎比于罰

凶年水害より
天より大震を

降のふるは西へり先王と云民のふる心と懷
たふはてそ乃所作と云民は利又便ふたふり

かんぐく視く都と遷しういしううをううな
汝等つねり古后のう所聞おるびぶうううう

うけい^と念^ぞく^ハ曷^ハや朕^ハ今^ハ汝^ハの^ハく^ハと承^ル
しりて汝^ハし喜康^ハと共^ニり俾^ルん^ハこお^ハる^ハを

元より汝等と咄むことなりそや罰は比へ
居と遷とめんところを非ざるなりとや

經典、余帀

書經卷之三

四十五

予若こゝろ顓懷しんくわい茲新邑このしんい亦惟また汝故ゆゑ以もつ不な從したが志し

今予いま試しる以もつ汝な遷うつ安やす定やす厥邦そのくに汝不な憂うれ朕心わがこころ之の攸たふ困こ乃すなは咸大みな不な宣のたま乃すなは心こころ欽しん念しん忱しん以もつ予一人われひとりと動うご不な再また惟また自みづか鞠ま自みづか若ごと苦くる舟ふね乘のり若ごと汝濟なほ不な厥載そののりの

予若顓懷茲新邑亦惟汝故以不從
厥志しんくわい

○今予將試以汝遷安定厥邦汝不
憂朕心之攸困乃咸大不宣乃心欽
念以忱動予一人爾惟自鞠自苦若
來舟汝弗濟臭厥載爾忱不屬惟胥
以沈不其或稽自怒曷廖しんくわい

と臭くさ人ひと再また忱しん屬ぞく不な惟また胥しよ以もつ沈しん人ひと其その稽しる不な或ある不な自みづか怒おこも曷いか廖れう

汝長ながと謀まか以もつ乃すなはの思おも不な汝な誕た其その今いま有あ後のち罔な汝な何なんの生せい上うへ在あ人ひと

今予命いま汝な一ひと無な起おこ穢し起おこ以もつ自みづか臭くさ恐おそ人ひと倚よ乃すなは身み遷うつ乃すなは心こころ

乃災汝誕勸憂今其有今罔後汝何
生在上しんくわい

起穢以自臭恐人倚乃身遷乃心
今予命汝一無

乃父之勞汝共之
我畜民作

汝我之有則
乃の心は在我先後
乃祖乃父と終ず
乃祖乃父乃
汝と断棄て乃の
死と救不

茲予政とと乱め
位と同ふす有て
乃の貝玉と具乃
祖乃父不乃乃
ら我高后と告て

曰ん丕刑し手朕
孫と作んと高
后と迪ひて丕
乃乃崇と弗
祥と降さん

嗚呼今予汝易
大恤と敬んて丕
絶遠と念と令て以
て相從ひ各中
と乃の心于設

乃不吉不迪
顛越不恭暫遇

一えより徳喪したへ上天より汝を罰しつへ
やの時れと後悔といふれものうは迪ある
べし古我先后乃祖乃父と勞するは汝等
も共々我畜民の民あるは汝等も

○汝有哉則在乃心我先后終

乃祖乃父乃祖乃父乃断棄汝不救

乃死
汝の祖と父とを終つて死す身は汝の祖と父とを断棄て汝を不救す

○茲予有亂政同位具

乃貝玉乃祖乃父丕乃告我高后曰

作丕刑于朕孫迪高后丕乃崇降弗

祥
國政を亂る同列の貝玉を具はし我高后湯

王の祖も父も汝等とふしきり我高后湯
子孫乃の刑を降さん

○嗚呼今予告汝不易永敬大恤無

胥絶遠汝分猷念以相從各設中于

乃心
都遷の民乃を爲すは不易の心あり

大を憂恤し汝等敬んて我高后湯
とつて我の心と絶遠を令て以て相從す

○乃有不吉不迪顛越

不恭暫遇茲究我乃剗殄滅之無遺
音無俾易種于茲新邑

往哉生生今予將
試以汝遷永建乃家

盤庚下

盤庚下

不恭暫遇茲究我乃剗殄滅之無遺
音無俾易種于茲新邑
往哉生生今予將
試以汝遷永建乃家
盤庚下

盤庚既遷奠厥攸居乃正厥位綏爰
有衆曰無戲怠懋建大命

今予其敷心腹
腎腸歷告爾百姓于朕志罔罪爾衆

盤庚既遷奠厥攸居乃正厥位綏爰
有衆曰無戲怠懋建大命
今予其敷心腹
腎腸歷告爾百姓于朕志罔罪爾衆

爾無共怒協比讒言予一人

古我先王將多
前功于多
于山于適
用我山德
朕邦于嘉績

今我民用蕩析
離居
罔爾朕
萬民之震動

肆上帝將我高
祖之德
亂越我家
人將朕篤敬
及恭んで民乃
命と承て用る地
と新邑于永くす

肆予冲人厥謀
と廢る非を靈
と由るに予各
敢て下達非す
用て茲實を宏に

經典餘師

書經卷之三

四十九

古我先王將多于前功適

于山用降我山德嘉績于朕邦

前代契の時より民の爲より功なり

今我民用蕩析離居

罔有定極爾謂朕曷震動萬民以遷

肆上帝將復我高祖之德亂越我家

朕及篤敬恭承民命用永地于新邑

冲人非廢厥謀弔由靈各非敢違下

用宏茲實

肆予

嗚呼邦伯師長百執事之人尚皆
皆隱予其懋簡相爾念敬我衆
相ひきて我衆と念敬す

朕貨を好む肩
世不敢て生生
と恭しむ鞠人謀
人之居を保んす
叙て欽む今我

このふいの事について諸臣の謀と廢つてしるは
らば由て盡くこととるにけり幸なり
との儀式おやうと民宏よりけり此貴

嗚呼邦伯師長百執事之人尚皆
隱哉予其懋簡相爾念敬我衆

執事と尉官のふいの事と都のふいの事と極め
る大義ありこととるにけり相ひきて我衆と念敬す

朕不肩好貨敢恭生

生鞠人謀人之保居叙欽今我既羞

告爾于朕志若否罔有弗欽無總于

貨實生生自庸

朕いふより貨と好むの
ををくこととるにけり

朕志の若否
と告欽し弗と
有る罔貨實と
于總むと無と
生生自庸と

肩とく恭んむ民の生生ふいの民と鞠ひ
る民を保居とる謀の叙にけり今我既羞
の叙とて告くべし邑とる民の保居とる
志とて告くべし

式んで民は徳と
敷て永く一心
肩

敷民徳永肩一心
忠義と一心肩と主
君はしるにけり

說命上

說命上

此帝傳説の天子と高宗と
民の命と高宗の命と

王宅憂亮陰宅宅
三祀既喪其
免其惟言弗言
臣咸王諫曰
嗚呼之知明
哲曰明哲實
則作天子惟萬
邦之君之百
官式之承王之言
惟命之作言不臣
下今之稟攸罔

王宅憂亮陰三祀既免喪其惟弗言
羣臣咸諫于王曰嗚呼知之曰明哲
明哲實作則天子惟君萬邦百官承
式王言惟作命不言臣下罔攸稟令
帝高宗其父帝之喪既而喪中而免其
政務之諸執事天子三年之喪
冢宰職乃入天子之門例群臣咸
曰嗚呼之知明哲實作則天子惟
實天下之則天子之門例群臣咸
天子之門例群臣咸
天子之門例群臣咸

王庸作書以誥曰
四方于正于台
德弗類茲故弗言
恭默思道

夢帝資予良弼
言乃以厥象
審其予代
以旁求于天下
求俾說傳巖之
野

庸作書以誥曰以台正于四方台恐
德弗類茲故弗言恭默思道
夢帝資予良弼其代予言乃審厥
象俾以形旁求于天下說築傳巖之
野惟肖
天子之門例群臣咸
天子之門例群臣咸
天子之門例群臣咸

爰立作相王諸其左右
置之命曰朝夕納誨以輔台德

命之曰朝夕納誨以輔台德

若金若水若火若土
若水若火若土若金

若金若水若火若土

舟楫若水若火若土
舟楫若水若火若土

舟楫若水若火若土

若藥瞑眩厥疾弗瘳
若藥瞑眩厥疾弗瘳

若藥弗瞑眩厥疾弗瘳

厥疾弗瘳若藥弗瞑
厥疾弗瘳若藥弗瞑

厥疾弗瘳若藥弗瞑

惟乃僚暨心同
惟乃僚暨心同

惟乃僚暨心同

兆民と康せ俾鳴
呼予が時命と欽
で其終有んと惟

説王千復して曰
惟木繩より従へば則
ち正し后諫めに
従ふべし則ち聖后
克聖くまば臣命
ぜども其承疇
敢て祇んで王之
休命に告ぐる不

有終。

義を以て乃の同僚人と心と同一して忠
臣を以て乃の同僚人と心と同一して忠

の道^{みち}に率^{ひき}づいて我^{われ}高^{たか}后^ごの湯^ゆ王^{わう}の徳^{とく}と迫^せ
 兆^{ちやう}民^{みん}と安^{あん}穩^{えん}にや^や一^{いつ}なり康^{やん}ど^ど一^{いつ}予^よが今^{いま}時^{とき}に命^{いのち}
 ぞ^ぞ昔^{むかし}と飲^のんぶ^ぶりちや^やととき^{とき}に君^{きみ}臣^{おみ}の^のう^うり^りに^にん^ん
 民^{たみ}み^みう^うい^いう^うり^りう^うる^る永^{なが}く^く惟^{ただ}に^に終^{すい}て^てく^くふ^ふこ^こと^と

○說復于王曰惟木從繩則正

后從諫則聖后克聖臣不命其承時

敢不祗若王之休命

傳ふ説あひこし復くはへ奉ほう
中ちゆう薪しん木き

とも繩くわだりて束たづなめり時ときを正ただしむるまやうに后ごに名なま
 らりりとも忠臣ちうしんの諫かんりあてふにたは聖人せいじんの
 院いんりてむに后ご聖賢せいけんとたは主命しゅめいをくとも臣下しんか
 承うけんで后ごとおもはるやうく疇しうくむり王わうの休命きうめい
 祇君ぎくんぞうもの
 らんやうり

説命中

惟說命ただいふのみ命めい之を以もつてて百官ひやくくわんと總すべ乃のち以もつてて王わう于を進すすて曰いはく鳴なり呼よ明めい王わう天てん道どう奉ほう若ごとく邦はうと建けん都とと設しやう后こう王わう君くん公こうと樹じゆて承しょうるに大だい夫ふう師し長ちやうと以もつてす惟い逸いつ豫よ也なり不ず惟い以もつて民みんと亂らん

說命中

惟說命總百官乃進于王曰嗚呼明
王奉若天道建邦設都樹后王君公
承以大夫師長不惟逸豫惟以亂民

惟天の聰明惟聖

外^わに^にと^とせ^せし^しめん^{めん}との^の
他^た念^{ねん}ふ^ふし^し

○惟天聰明惟聖時

時憲惟臣欽若
惟民從之

惟臯起
甲冑我起
惟衣裳
戈厥身
省

王惟茲
允茲克明
乃休不

惟治亂
官私昵
及不

憲惟臣欽若惟民從之

上天の聰明
と實にわ

○惟口起羞惟甲冑起我惟

衣裳在笥惟干戈省厥躬王惟戒茲

允茲克明乃罔不休

惟口一言と出

○惟治亂在

惟其能
惡德
其賢
以動
惟厥時

其善
厥善
其能
惟事
乃其
有患
無寵
納

惟其能
惡德
其賢
以動
惟厥時

其善
厥善
其能
惟事
乃其
有患
無寵
納

庶官官不及私昵惟其能爵罔及惡

德惟其賢慮善以動動惟厥時

○有其善喪厥善矜其能喪厥功惟

事事乃其有備有備無患無啓寵納

侮無耻過作非惟厥攸居政事惟醇

○有其善喪厥善矜其能喪厥功惟

過こまこちちとと耻はぢぢてて非ひと
作さとと無な惟ひ厥け居ゐ居ゐ攸け
政せい事じ惟ひ醇じゅん

祭まつり祀まつ于こゝに贖あがな時ときと
 欽あき弗ふ謂いふ禮れい煩わづらハ
 神かみ事こと則すなは難がた

王の曰く旨哉説
乃ちの言惟服はん
乃ち言于良不子

身を義理地位に居たるは國政万事醇
 のいふ清く直ちて道なりとあるを

〇 黷

于祭祀時謂弗欽禮煩則亂事神則

神明よりつゝまづこれ法ハ欽敬を第一とし、
 乃ちより神仏を押し友とらするのふかき

くろ己が身ぐいとつるどるも神仏を黷祭祀と
いふりのと時と弗飲とらふとてく礼義をらふり
煩多くしてけりふとて心を乱多信心とく
ふく神明はえとてく難とやなり

王曰。旨哉說。乃言。惟服。乃不良于言。

予罔聞于行。說拜稽首曰。非知之難。

行之惟艱王忱不艱允協于先王成

德惟トク說セツ不フ言コト有アル厥クワ咎ト。
高宗タウツウ之ノ聞キコ之ヲ乃ハ今イマ乃ハ

う言上すゝ条もふゝ音味
るゝゝ良言もふゝゝ朕行ゝみひも聞ま

りふとて後ふしとありきとて傳説首を稽こ拜
し又ふとてとて世の人義理を知りてをく

とハ非難多れども身ヲ行ふと云難と云り王の
悦と云りおこなひをもちひ難と云はるゝ云ふんぞ

それぞ先王の成徳を懐き人といふものなり臣
 身と以て君の徳行と言ひふふとんを此臣は

身の処と
りよのこ

説命下
父帝の意を君と身と民の艱難辛苦とあふふとあり

經典餘帀

書經卷之三

卷之五

御子高宗と薙野う
あぢうからる居た人

王の曰來汝説きこ曰いふ
小子こ昔むかし甘盤かんぱん于を
學まな既に乃すなはち
荒野くわん于を逐お入いる
河于宅か河自毫か
祖そ厥終くわく又覺また覺きこんて
顯あること罔な

爾なん惟ち朕れんが志こころざとと
于こゝ訓しづく若ごと酒さけ醴ひと
作つく再また惟また麴まぐ蘖も若ごと和わ
羹かうをつく再また惟また鹽しほ梅うめ
再また交まじぐ予われと修とよて
予われと兼あひと罔な予われ惟また
克よく乃しかの訓しづと邁こゝろへん

王曰來汝說台小子舊學于甘盤既
乃遷于荒野入宅于河自河徂亳暨
厥終罔顯小子之傳說也來ういて曰すう口舊
小子より甘盤より賢者の學問
又河乃既乃遷又于河自河徂亳暨厥終罔顯
○爾

朕酒醴と作ふんとそれハ再々麴藥と作べり又
和羹を作んとすればふんぢ梅鹽の司とありてその加
減とちぐはしを君臣交りて合し予ハ徳ヲ
修布く予と乗さうし予ハ心とをけこむ乃ちの
訓を邁施めんと

○説曰。王。人求多聞時

惟建事學于古訓乃有獲事不師古
以克求世匪說攸聞

の事とて建^ツて古の訓と學^ブんで道^ヲを^ニ行^フふの義
 理と獲^テてあり政事とつゝ古と師とせざるの世
 といふ永^クくも^ハい^ハま
 と聞^ク彼^ノ非^ヲを
 厥修乃來允懷于茲道積于厥躬
 惟學遜志務時敏

志と遜し務く時く敏く仁く徳修ひく胸中く生

惟教ゆるの学が半
始終は念て学于
典をれば朕徳修
る覚ること固先王
の成憲を監て其
永く愆ち無

これより
 惟説式て克欽と
うかやまひーんがふ
 承旁く俊又と
まのきいよいふまつ
 招て庶位于列せ
 ん

王の曰く鳴呼説

四海之内咸朕之
德と仰時乃の風
股肱らうて唯人
良臣らうて唯聖

昔先正保衡我先
王と作す乃ち曰
予克厥后と惟堯
舜とあり俾弗バ其
心愧耻と市于撻

經曲餘師

書經卷之三

五十二

來^{きた}り^{あり}て^るも^も道^{みち}徳^{とく}身^みに^に積^つめ^める^るを^を味^{あじ}は^はふ^ふ。

○ 惟^{ただ}教^{しよ}學^{がく}

半念ハノ始終シヨウ典テノ于學ガク。厥レ德トク修ス罔レ覺カク監ミ于ニ

先王成憲其求無愆

一やいふとていふべし教のくは己といふく
 そ半ばも學よりいふ始終と全ふく典は
 りをいふとていふ心は固覺く徳の成修を
 ぞいふとていふ先代の王乃成とていふ憲を監
 く身の行状とていふく永く
 ちくも愆失といふくをたふさぐ
 ○
 惟說式

克欽承旁招俊乂列于庶位

又また王わうの意いを承うけつゝつゝ王わう曰いふ鳴なり位ゐ列れつををふふくくののちちりりとと○王曰鳴

呼說四海之內咸仰朕德時乃風股

肱惟人良臣惟聖
王^{ミコ}_コ^ハ鳴^{ナリ}呼^{コエ}_ハ四^ヨ人^{ヒト}朕^{ミナ}

海の内咸く朕が徳と仰さるる時
 乃ち下へりて一々其の風俗の正しき
 たりと云ふ
 然るに朕が股のひる人の身体全具とお
 笑ひ君に徳有り臣下を得るるや國も太平
 子孫繁昌長久なりと云ふ
 舟楫霖雨と云ふ又を麴蘖と云ふ
 君の爲り股肱とありさや良臣下
 こや君と聖人の徳有りといふや
 奉る
 のあり
 昔先正保衡作我先王乃

曰予弗克俾厥后惟堯舜其心愧耻
若撻于市一夫不獲則曰時予之辜

惟石賢^{と云ふ}は非^{なり}とれ^ば
 不^ず惟賢^{と云ふ}后^き
 に非^{なり}と^は食^はせ^ず不^し
 其^を再^も克^く乃^のの^を辟^はを^す
 先王^を于^に紹^しめ^ば永^く

高宗又のうみや昔伊尹り我先湯王と作
 真にふく常にふくふく予君と聖人堯舜の
 仕立ずる家宰丞相る身乃魄たり市中る
 人又撻るる耻りとたりる天下の内一人と
 も上の仁と獲ざるのうみ伊尹その身乃耻あり
 幸ありる我烈祖湯王乃祐とる湯王の徳の
 高と皇天子格一そのくに傳説再も予保とふ
 り美とるかたりるいのののののののの
 うこれ阿衡とるを我有高り美
 〇惟后

非賢不乂惟賢非后不食其爾克紹
乃辟于先王求綏民

説拜稽首して
曰く敢て天子之
休命を對揚せん

高宗 日

手^て近^{ちか}つけば、
 徳^{とく}は、
 傳^ふ説^ま再^{また}も忠^{ちゆう}とを
 先^{せん}王^{わう}乃^{すなは}徳^{とく}と受^う紹^{しやう}
 行^ゆ長^{ちやう}久^{きう}ふ
 子^こ之^の休^{やす}命^{めい}
 と稽^き拜^{はい}して曰^{いは}中^{ちゆう}敢^{かん}と天^{てん}子^しの
 説^ま拜^{はい}稽^き首^{しゆう}曰^{いは}敢^{かん}對^{たい}揚^{やう}天^{てん}
 國^{こく}家^け又^{また}治^ちらるる
 食^{しょく}祿^{りく}を
 買^{かひ}人^{にん}と

高宗彤日

みらど禰^ウ
とと祭^{マツリ}乃^{ナリ}明^{アカ}所^{トコロ}とまつり
日^ヒ又^{マタ}ふ

ひ祭まつりとと脰祭うしろまつりととその明あき錘つちとびとと
そと鼎なべの耳みみとすとよりと雖いふなりと耳みみと善惡ぜんあくと
聰聽そうていとをささとととあつふたりと耳みみとふと
と善惡ぜんあくのこゝろとぬとらとの義ぎありありと

訓戒くんかいの

文體ぶんたい

高宗彤日越有雉
雉有祖己曰惟
先王格于厥
事と正さん

乃王于訓て曰
惟天下民と監て
厥義と興る年
を降す永有永
不有天之民
と天とる非民
命と中絶す

高宗彤日越有雉祖己曰惟先格
王正厥事
祖己といふ所の王といふ所を曰やうに
祖己といふ所の王といふ所を曰やうに
祖己といふ所の王といふ所を曰やうに

乃訓于王
曰惟天監下民典厥義降年有求有
不求非天夭民民中絶命
上天は下民を人間とて
上たは下民を人間とて

民
有不若德不聽罪天既孚命正厥德
乃曰其如台
民の徳を義理とて
民の徳を義理とて

民徳不若不罪
聽不有天既
孚命正
厥德と正と乃
ち其台と如と曰
や

嗚呼王民と敬
事と司
天胤と非と罔祀
と典とて昵于
豊ととふと魚

○民
有不若德不聽罪天既孚命正厥德
乃曰其如台
民の徳を義理とて
民の徳を義理とて

○鳴呼王司敬民罔非天胤
典祀無豐于昵
鳴呼帝王天の胤
萬民と敬と司とて

西伯戡黎

西伯戡黎

西伯と周の武王とありしとき

將軍あり西國に諸侯の伯あり黎の国
主の無道あり征さんと戦ふに
の徳あり歸服して殷の紂王を
天下文王武王

西伯既戡黎祖伊恐奔告于王曰天
于既訖我殷命格人元龜敢知
吉非先王不相我後人惟王淫戲用
自絶

西伯の黎を勝つに祖伊の祖伊の
紂王を告ぐに王悪虐とあり
格人元龜の命と絶つに
格人もつげ知るに元龜も吉凶と
一も二も元より先王神明の後人を相た
まはすに王乃已自絶るに神明の絶るに

故天我之棄康
食有不天性与虞
不典迪率不令
我民喪人々と欲
弗と罔曰天曷
威と降不して大
命執手不や今王
其台と如

故天棄我不
有康食不虞天性不迪率典今我民
罔弗欲喪曰天曷不降威大命不
令王其如台と棄るに天神の我殷の代
外口とありと虞と天子と典と迪率と
民のすくなくと殷の威と降たはるに
又ありと聖の天子と大命の
撃とありとや台と如とや

王の曰く嗚呼我
生命天に在有不
や祖伊反て曰嗚

○王曰嗚呼我生不有命在天祖
伊反曰嗚呼乃罪多參在上乃能責

微子

微子ミコ君ミコ曰イハク父フ師シ少セウ師シ殷イン其キ弗フ或ウチ亂ラン正セイ

微子

微とい國の名あり子とと爵位乃
名ありと旗本小名あり類と紂王の

慶母の兄あり右のどゝゝ殷のうゝひんと
 ふゝゝひゝる箕子と比于ゝゝ相謀るゝ問答
 の言あり箕子比于ゝ
 諸父ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

四方我祖底遂陳于上我用沈酗于

師^し多^{おほく}比^ひ干^{かん}の^のあり
 微^い子^この^の二^に人^{にん}若^し曰^{いは}く今^{いま}
 殷^{いん}の^の帝^{てい}暴^{ぼう}逆^{ぎやく}無^む道^{どう}の^のあり
 微^い子^この^の二^に人^{にん}若^し曰^{いは}く今^{いま}
 我^{われ}祖^そ王^{わう}位^ゐと底^{てい}遂^{すい}くその^の德^{とく}
 上下^{じやうげ}の^の陳^{ちん}一^{いつ}やと今^{いま}王^{わう}酒^{しう}と也^やと
 沈^{しん}酒^{しう}の^の君^{きん}の^の德^{とく}と亂^{らん}敗^{がい}
 世^よの^の風^{ふう}義^ぎおとほへし
 殷^{いん}罔^{わう}不^ふ小^{せう}大^{だい}

○殷罔不小大

好草竊堯卿士師師非度凡有辜

罪乃罔恒獲小民方興相爲敵讐

殷いん小せう大だい草そう竊せつこ之し宥ゆう
このまがさうなせいの
と好い不ふと罔い卿けい士し
いと
非ひ度どと師し師しす凡ひ
このひのあつた
辜こ非ひ有ゆう乃の乃の恒へい
このなやうな
と獲とくと罔い小せう民みん方ほう
このとくを
と興きて敵てき讐しゅうと相あひ
このあひ
爲なす

也一般の人々上下大おほ小こ乃すなはちたゞ草竊くさせうありて
 究きうるるぬりのなり卿士けいしの人々いづとも非度ひどと
 師し々々々々法はふと犯かめめののと辜罪こざいののを罰しかりと
 獲とくるるふくく小民こみんも上うへととおそそとと強つうりのの

今殷其淪喪今殷其淪喪若涉若涉大水其無津涯大水其無津涯殷遂喪越至于今殷遂喪越至于今

曰父師少師我其曰父師少師我其狂狂發發出出吾吾家家之之老老老老遜遜于于荒荒今今爾爾無無指指告告告告之之無無之之若若何何

父師若曰王子天

○今殷其淪喪若涉大水其無津涯殷遂喪越至于今今殷其淪喪若涉大水其無津涯殷遂喪越至于今

○曰父師少師我其曰父師少師我其

發出狂吾家老老遜于荒今爾無指告發出狂吾家老老遜于荒今爾無指告

予顛濟若之何其予顛濟若之何其

○父師若曰王子天毒降災荒父師若曰王子天毒降災荒

毒災之降殷毒災之降殷

邦之荒方興邦之荒方興

于酒于沈酗于酒于沈酗

乃罔畏乃罔畏

今殷民乃攘今殷民乃攘

祗之犧牲祗之犧牲

以容將食以容將食

無災降監無災降監

敵讐敵讐

殷邦方興沈酗于酒乃罔畏殷邦方興沈酗于酒乃罔畏

耆長舊有位人耆長舊有位人

○今殷民乃攘今殷民乃攘

祗之犧牲祗之犧牲

以容將食以容將食

無災降監無災降監

敵讐敵讐

王子又詔出迪
方我舊云子
と刻る王子出弗
我乃ち願く
辭自づく靖と

出迪我舊云刻子王子弗出我乃顛
 齊自靖人自獻于先生我不顧行遜

人々自づ先王
于獻ず我を行
あつとと顧不

箕子より微子は詔さされず、
微子の代なり。顛降し、忠義と先王（壽王）と
人々各自心な靖く忠義と先王（壽王）と
あり我を逖行し顧みず共死せんもの
や微子より殷と顧みず共死せんもの
逖行すべしと比干独言所あるは箕子も同
意あり少あらずそのち微子を出さる比干を
諫め死し箕子に囚われ箕子の後朝鮮に駐
とのせり聖人孔子も此三人と三仁なりと称美す

書經卷之三終

書經卷之三終

